

第12条 ジャンプ・ボール、オルタネイティンク・ポゼッション・ルール

(Jump ball and alternating possession)

12.1 ジャンプ・ボールとヘルド・ボール

- 12.1.1 ジャンプ・ボールは、第1ピリオドを始めるとき、センター・サークルで、審判が両チームの任意の2人のプレイヤーの間にボールをトス・アップして行われる。
- 12.1.2 ヘルド・ボールは、両チームの2人あるいはそれ以上のプレイヤーがボールに片手または両手をしっかりとかけて、どちらのプレイヤーも乱暴にしなければそのボールを独占することができないときに宣せられる。

12.2 ジャンプ・ボールの規定

- 12.2.1 両ジャンパーは、センター・サークルの自チームのバスケットに近いほうの半円の中に両足が入るように立ち、片足はセンター・ラインの近くにおく。
- 12.2.2 1チームの2人のプレイヤーがサークルのまわりになり合わせて位置したときは、相手チームから要望があれば、一方の位置は譲らなければならない。
- 12.2.3 審判は、両ジャンパーの間で、ジャンパーがジャンプしても届かない高さまでまっすぐ上にボールをトス・アップする。
- 12.2.4 ジャンパーは、ボールが最高点に達してからタップしなければならない。
- 12.2.5 ジャンパーは、ボールがタップされる前にジャンプ・ボールの定位置を離れてはならない。
- 12.2.6 どちらのジャンパーも、トス・アップされたボールをつかんではいないし、それぞれ2回までしかボールをタップすることはできない。
ジャンパーは、許されたタップをするほかは、ボールがジャンパー以外のプレイヤーあるいは床に触れるまでは、ボールに触れてはならない。
- 12.2.7 どちらのジャンパーもボールをタップすることができなかつたりトスが曲がったり低すぎたりしたときは、審判は、ジャンプ・ボールのやりなおしをする。
- 12.2.8 ジャンパー以外のプレイヤーは、ボールがタップされるまでサークル(円筒)の外にいないなければならないし、からだのどの部分もサークル(円筒)のラインをこえて内側に入れてはならない。

12.2.1, 12.2.4, 12.2.5, 12.2.6, 12.2.8に違反することはヴァイオレーションである。

12.3 ジャンプ・ボール・シチュエーション

次のとき、ジャンプ・ボール・シチュエーションになる。

- (1) 第1ピリオド以外のピリオド(延長時間を含む)を始めるとき
- (2) ヘルド・ボールが宣せられたとき
- (3) 両チームのプレイヤーが同時に触れてボールがアウト・オブ・バウンズになったとき
- (4) だれが最後に触れてボールがアウト・オブ・バウンズになったか審判がわからなかったとき
あるいは審判の意見が一致しなかったとき
- (5) 最後のフリースローが成功しなかったときに、両チームのプレイヤーがフリースローのヴァイオレーションをしたとき
- (6) 両チームのプレイヤーが同時にヴァイオレーションをしたとき
- (7) ライブのボールがバスケットにはさまったりのったりしてしまったとき
ただし、あとにフリースローやスロー・インがつづくときを除く
- (8) どちらのチームもボールをコントロールしていないかスロー・インのボールが与えられることになっていなかったときにボールがデッドになったとき
- (9) 両チームのベンチにいる人たちが第39条「ファイティングの規定」によって失格・退場になり、ほかに適用されるファウルの罰則がなかったとき

(10) 第42条「特別な処置をする場合」で、両チームに科される重さの等しい罰則を相殺していったあとに罰則が残らず、なおかつどちらのチームもボールをコントロールしていなかったかスロー・インのボールが与えられることになっていなかったとき

12.4 オルタネイティング・ポゼッション・ルール

12.4.1 オルタネイティング・ポゼッション・ルールとは、ゲーム中、ジャンプ・ボール・シチュエーションになったとき、両チームが交互にスロー・インをしてボールをライブにするゲーム再開の方法である。

12.4.2 このスロー・インは、ジャンプ・ボール・シチュエーションになったところにもっとも近い位置から行う。

12.4.3 オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インのボールは、第1ピリオドを始めるときのジャンプ・ボールで最初にボールをコントロールしたチームの相手チームに先に与えられる。

12.4.4 第1ピリオド以外の各ピリオド（各延長時限を含む）は、オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインからのスロー・インで始められる。そのスロー・インをするチームは、通常の場合は、前のピリオドが終了したときにオルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インのボールが与えられることになっているチームである〔例外：第36条36.2.2-(1)、第37条37.2.3-(1)、第38条38.4.1-(1)〕。

12.4.5 オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インは、**審判がスロー・インをするプレイヤーにボールを与えたときに始まる。**

また、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インは、**次のときに終わる。**

(1) **スロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れたとき**

(2) **スロー・インをするチームにヴァイオレーションが宣せられたとき**

(3) **スロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れずにバスケットにはさまったりのったりしてしまったとき**

12.4.6 オルタネイティング・ポゼッション・ルールによって次にスロー・インのボールが与えられるチームは、ポゼッションの表示器具によって示される〔ポゼッション・アロー（赤色の矢印）で示す〕。

ポゼッション・アローの向きは、次にスロー・インのボールが与えられるチームの攻撃する方向を示す。

12.4.7 オルタネイティング・ポゼッション・ルールによって**スロー・インのボールを与えられたチームがスロー・インが終わる前にヴァイオレーションを宣せられたときは、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インの権利は取り消され、ゲームは、相手チームのスロー・インで再開される（このスロー・インはヴァイオレーションの罰則によるものであり、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるものではない）。**

次にジャンプ・ボール・シチュエーションになったときスロー・インのボールが与えられるチームも**相手チームからとなる。**

12.4.8 第1ピリオドが始まる前を除くプレイのインタヴァル中（ハーフ・タイムも含む）、あるいは競技時間中オルタネイティング・ポゼッション・ルールによる**スロー・インが始まってから終わるまでの間に、どちらかのチームにファウルが宣せられたときは、ゲームは、ファウルの罰則で再開される。**

どちらのチームにファウルが宣せられたとしても、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インの権利は取り消されないで、次にジャンプ・ボール・シチュエーションになったときにスロー・インのボールが与えられるチームは、このときスロー・インのボールが与えられることになっていたチームからとなる。

各ピリオド（各延長時限も含む）を始めるオルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インでボールがスロー・インをするプレイヤーに与えられてから**スロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れるまでの間にファウルが宣せられたときは、そのファウルはプレイのインタヴァル中ではなく競技時間中に起こったものとして処置する。**

9. 第12条 ジャンプ・ボール、オルタネイティング・ポゼション・ルール

- (1) “オルタネイティング・ポゼション・ルール”の改正により、第1ピリオドを始めるときのセンター・サークルでのジャンプ・ボール以外は、原則としてジャンプ・ボールは行わないことになった(第9条9.1, 9.2参照)。
第1ピリオド以外の各ピリオド(各延長時限も含む)は、通常の場合(ファウルのない場合)は、オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインからのオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インで始めることになった(第9条9.2, 第12条12.4.4, 解説7。「第9条 ゲーム、ピリオドの開始と終了」(1), (4)参照)。
- (2) 第1ピリオドを始めるジャンプ・ボールで、ジャンパーにタップされたボールを一方のチームのプレイヤーがコントロールしたときは、すみやかにポゼションの表示器具を用いて、ボールを最初にコントロールしたチームの相手チームが攻撃する方向をポゼション・アローで示す。
どちらのチームが次にオルタネイティング・ポゼション・ルールによってスロー・インのボールが与えられるかは、つねにこのポゼション・アローによってそのチームの攻撃する方向を示しておく。
- (3) 第1ピリオドを始めるジャンプ・ボールのとき、一方のチームのプレイヤーにヴァイオリションが宣せられた場合は、最初にボールをコントロールするのはヴァイオリションの罰則でスロー・インのボールを与えられたチームである。したがって、ポゼション・アローはヴァイオリションを宣せられたチームの攻撃する方向を示す。

第1ピリオドを始めるジャンプ・ボールのとき、ジャンパーにタップされたボールをどちらかのチームのプレイヤーがコントロールする前に一方のチームにファウルが宣せられた場合は、最初にボールをコントロールするのはファウルを宣せられたチームの相手チームである。したがって、ポゼション・アローはファウルを宣せられたチームの攻撃する方向を示す。
- (4) 第1ピリオドを始めるジャンプ・ボールのとき、ジャンパーにタップされたボールをどちらかのチームのプレイヤーがコントロールする前にヘルド・ボールかダブル・ファウルが宣せられた場合は、例外としてゲームはセンター・サークルでのジャンプ・ボールで再開される。
ジャンパーはこのヘルド・ボールやダブル・ファウルにかかわった2人のプレイヤーである。3人以上のプレイヤーがヘルド・ボールにかかわっているときは、審判は、そのうちで身長ほぼ等しい、両チームのプレイヤーをジャンパーとして指定する。このとき指定されたジャンパーが負傷した場合は、そのプレイヤーと交代したプレイヤーがジャンパーとなる。このジャンパーは、ゲーム・クロックがいったん動いたあとでなければ交代は認められない。
- (5) 第1ピリオドを始めるジャンプ・ボールのとき、ジャンパーにタップされたボールをどちらかのチームのプレイヤーがコントロールする前に次のことが起こってジャンプ・ボール・シチュエーションになった場合も、例外としてゲームはセンター・サークルでのジャンプ・ボールで再開される。この場合は、両チームの任意のプレイヤーがジャンパーになる。
両チームのプレイヤーが同時に触れてボールがアウト・オブ・バウンズになったとき
だれが最後に触れてボールがアウト・オブ・バウンズになったか審判がわからなかったとき
あるいは審判の意見が一致しなかったとき
両チームのプレイヤーが同時にジャンプ・ボールのヴァイオリションをしたとき
両チームのベンチにいる人たちが第39条「ファイティングの規定」によって失格・退場になり、ほかに適用されるファウルの罰則がなかったとき
この規定でいう「任意のプレイヤー」は、ジャンプ・ボール・シチュエーションになったときにコート上にいたプレイヤーでなければならない。

- (6) ジャンプ・ボール・シチュエーションになったとき、ポゼッション・アローの向きがちがっていたり、そのほか何らかの誤りによって、**審判がちがうチームにオルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インのボールを与えてしまった場合は、次のように処置する。**
誤って審判から与えられたボールがスロー・インされる前、あるいはスロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れる前に審判が誤りに気がついてゲームを止めたときは、その誤りを訂正し、正しいチームのスロー・インでゲームを再開する。
スロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れたあとは、その誤ったスロー・インは訂正することはできない。審判は、そのままゲームをつづけさせなければならない。
この場合は、次のオルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インのボールは、誤ったスロー・インをしたチームの相手チームに与えられる。
- (7) オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インが終わるときに「スロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れずにバスケットにはさまったりのったりしてしまったとき」が追加された（第12条12.4.5-(3)）。
すなわち、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インのボールがコート内のプレイヤーに触れずにバスケットにはさまったりのったりしてしまったときは、このスロー・インは終わったので、ポゼッション・アローの向きは変えられ、あらためてジャンプ・ボール・シチュエーションとなり、ゲームは、相手チームのオルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インで再開されることになった。
- (8) オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インが終わるまでの間にスロー・インをするチームがヴァイオレイションを宣せられたときは、このスロー・インは終わったので、ポゼッション・アローの向きを変える（第12条12.4.7）。
オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インが終わるまでの間にスロー・インをするチームの相手チームがヴァイオレイションを宣せられたときは、あらためてそのヴァイオレイションの罰則によるスロー・インでゲームを再開する。このときは、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インはまだ終わっていないので、ポゼッション・アローの向きは変えない。
- (9) 第1ピリオドが始まる前を除くプレイのインタヴァル中（ハーフ・タイムも含む）、あるいは競技時間中**オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インが始まってから終わるまでの間に、どちらかのチームにファウルが宣せられたときは、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インはまだ終わっていないので、ポゼッション・アローの向きは変えない**（第12条12.4.8参照）。
- (10) ジャンプ・ボール・シチュエーションになってからオルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インが終わるまでの間にファウルが宣せられたとしても、そのファウルだけでは第42条「特別な処置をする場合」にはならない（第42条42.1参照）。
オルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インは罰則によるものではないので、相殺の対象にはならない。
- (11) ジャンプ・ボールのとき、ジャンパーはボールを両手でタップしてもよい